



高濃度ビタミンC点滴ご希望の方へ

この点滴は、内服ではまず摂取しえない「高濃度」ビタミンCを点滴し、体内の血中濃度を急速に上昇させることを目的としています。効用・効能は種々の媒体ですすでにご存知の方が多くと存じますが、簡単に説明いたします。

- ビタミンCは「抗酸化剤」の1つです。

ストレス、生活習慣病（糖尿病や高血圧、肥満など）、癌（悪性腫瘍）炎症、紫外線（過度の日焼け）などに生体がさらされると、防御反応で酸化物質が生み出されます。たとえばりんごをむいて放置しておくとな茶色に変色しますが、この反応が「酸化」の代表的な変化のひとつです。同様に、生体内において酸化反応からの回復機構が遅れると、炎症や加齢変化が引き起こされるのです。この「酸化」作用をコントロールするのが「抗酸化剤」です。

- 代表的な「抗酸化剤」を挙げますと・・・

生体内で作られるもの：グルタチオン、**CoQ10**など

植物性食品に含まれる化学物質（フィトケミカル）：

カロテノイド：**β-カロテン**、ルテイン、**アスタキサンチン**、リコピンなど

ポリフェノール：**アントシアニン**、カテキン、**イソフラボン**など

ビタミン： ビタミンE、ビタミンA、**ビタミンC**

などが代表的なものです。

* 田辺レディースクリニックでは赤字で示した抗酸化物質の案内もパンフレットにお示ししておりますので、同様にご参照ください。



- 高濃度ビタミンC点滴が受けられない体質の方がいます

ビタミンCに対してアレルギーを起こしたことがある方、鉄過剰症（鉄の吸収を促進します）、腎不全、重度の糖尿病（脱水を助長するため）、腎結石症（発生頻度は極めて少ないですが）が挙げられます。

また、糖尿病の患者様で血糖値を計測されている方、点滴当日の血糖値が変化する可能性があります。

そして重要なのが、まれではございますが、高濃度ビタミンC点滴を受けると溶血反応（血が解けてしまう重大な副作用）がおきてしまう体質の方がいます。

G6PD欠損症といわれる病態です。この体質の方は、普段の生活には支障を来たしませんが、高濃度ビタミンCで溶血がおきてしまいます。

しかしご安心ください。その体質かどうかを判定する検査がございます。

（以下をお読みください）

- 当院では必ずG6PD検査をお受けいただく事にしております

少量の採血をさせていただきます。結果は1週間ほどいただきます。

この検査結果で問題なしと判断された方だけに高濃度ビタミンCを点滴いたします。初回は15g（約30分）、二回目は25g（約50分）と徐々に増量し、ご希望者は最大量50g（約100分）まで増量します。

週1回をめぐりに2~3ヶ月。その後は維持量として2週1回程度をお考えください。

- 高濃度ビタミンC点滴を他院で受けられたことのある方

溶血の副作用を防止するためにも、G6PD検査で問題ないことが必須です。

他院で検査を受けられた、もしくは他院で高濃度ビタミンC点滴を受けたことがあるという方は、G6PD検査結果をご持参いただくか、高濃度ビタミンCの用量がわかるものをご持参ください。ご持参いただけない場合は、当院でのG6PD検査を受けていただくことをご了承ください。